

緩やかな回復が続いている



笠原桜公園／守山市

県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動の現状を鉱工業生産指数で見ると、窯業・土石や食料品などは大幅に低下したが、電気機械や輸送機械は高水準が続き、金属製品やはん用・生産用・業務用機械などが上昇したため、原指数、季節調整指数ともに3か月連続のプラスとなっている。

需要面では、大型店売上高は既存店ベースでは4か月連続のマイナスとなっているが、全店ベースではウエイトの高い飲食料品が引き続き堅調に推移し、家具も3か月連続で前年を上回っているため、全体では3か月連続のプラスとなった。また、乗用車新車登録台数は消費税増税前の駆け込み購入がみられ5か月連続の大幅プラス、軽乗用車も6か月連続かつ大幅のプラスとなっている。さらに、公共工事の請負金額は2か月ぶりの大幅プラスとなった。一方、民間非居住用建築着工床面積でみた民間設備投資は3業用すべてでマイナスとなったため、3業用計では4か月ぶりの大幅マイナスとなり、新設住宅着工戸数は上記の駆け込みによる着工が縮小し持家が7か月ぶりのマイナスとなったため、全体では5か月連続のプラスとなっているものの全体の伸び率は鈍化してきた。このような状況下、雇用情勢をみると、新規求人倍率が2か月連続で上昇するなど、改善傾向がみられる。

これらの状況から県内景気の現状をみると、需要面で上記の駆け込み需要を受けた着工の一部で縮小の動きはみられるものの、製造業の生産活動が引き続き堅調に推移しているため、全体的には緩やかな回復が続いていると考えられる。

今後の動向 県内製造業の生産活動は、消費税増税前の駆け込み需要に伴う生産は徐々に縮小し、さらに増税後の反動減を見込んだ生産調整の動きがみられ、また、中国をはじめとする新興国景気の減速懸念による減産などから、全体に伸び悩むものと考えられる。

需要面では、消費税増税後の個人消費については、家計所得の伸び悩み、物価、光熱費の上昇、消費税の増税といったマイナス要因に加え、日用品やサービス消費も一転、節約志向が強まり買い控えの動きが出てこよう。さらに、民間設備や新設住宅着工などの投資関連需要についても、資材価格や労務費の一層の高騰懸念は根強いものの、駆け込み需要による着工などは徐々に減少していくものと考えられる。

したがって、今後の県内景気は、生産活動面では減産の動きがみられ伸び悩み、個人消費では消費税増税後は買い控えの動きが出はじめ、投資関連では徐々に減少していくと考えられるため、全体的に伸び悩み、弱含みの状態になると思われる。

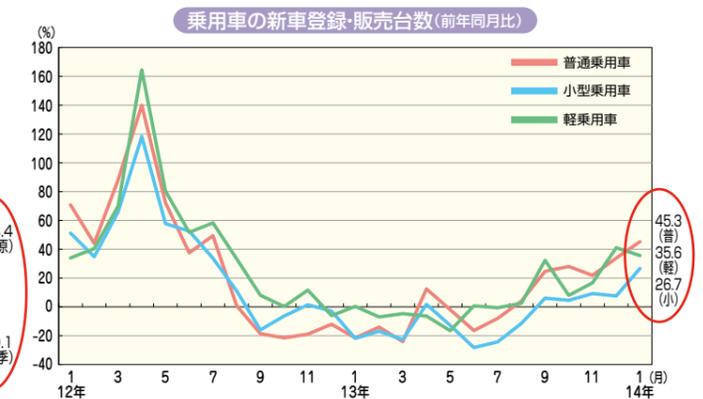
「鉱工業生産指数」は、原指数、季節調整指数ともに3か月連続のプラス

2013年12月の県内製造業の生産状況は、鉱工業生産指数(2010年=100)の「原指数」が100.7、前年同月比+8.4%、「季節調整指数」も104.4、前月比+0.1%で、ともに3か月連続のプラスとなり、また、鉱工業全体の季節調整指数の3か月移動平均値(11月)は103.4、前月比+2.1%で、3か月連続のプラスとなっている。業種別(中分類)に季節調整指数の水準をみると、「窯業・土石」などは低いものの、「電気機械」や「はん用・生産用・業務用機械」「輸送機械」「その他」などは高水準となっている。また、前月に比べると、「窯業・土石」や「食料品」などは大きく低下したが、「金属製品」や「はん用・生産用・業務用機械」などは上昇した。



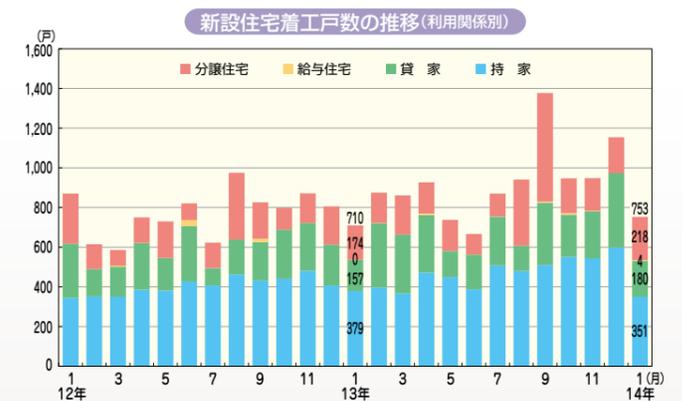
か月連続のマイナスとなっている(同-1.0%)。

1月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」は、「普通乗用車(3ナンバー車)」が6か月連続かつ大幅のプラス(1,735台、前年同月比+45.3%)、「小型乗用車(5ナンバー車)」も5か月連続のプラスとなっているため(1,494台、同+26.7%)、2車種合計では5か月連続の大幅プラスとなり、好調に推移している(3,229台、同+36.1%)。また、「軽乗用車」も6か月連続かつ大幅のプラスとなっている(2,592台、同+35.6%)。これも消費税増税前の駆け込み購入によるものとみられる。



「新設住宅着工戸数」は、5か月連続のプラスだが、伸び率は鈍化

1月の「新設住宅着工戸数」は753戸、前年同月比+6.1%で、5か月連続のプラスとなっているが、伸び率は鈍化してきた。消費税増税前の駆け込みによる着工が縮小してきたためとみられる。利用関係別で見ると、「持家」は351戸、同-7.4%(大津市62戸、草津市41戸など)となり7か月ぶりに前年を下回ったものの、「貸家」は180戸、同+14.6%(大津市32戸など)で前月に続き大幅のプラス、「分譲住宅」も218戸、同+25.3%(守山市86戸、大津市41戸、草津市40戸など)で、2か月ぶりのプラスとなった。内訳をみると、「一戸建て」は5か月連続で前年を大きく上回り(141戸、同+25戸)、「分譲マンション」も3か月ぶりの申請となった(77戸、前年差+19戸)。なお、給与住宅は4戸。



「乗用車新車登録台数」は、5か月連続の大幅プラス

2014年1月の「消費者物価指数(生鮮食品を除く総合/大津市/2010年=100)」は99.8、前年同月比+1.2%、前月比-0.2%となり、前年比では9か月連続かつ大幅のプラスとなっているものの、前月比では3か月連続のマイナスとなった。「可処分所得(同)」は4か月連続かつ大幅のプラスとなったものの(前年同月比+12.4%)、「家計消費支出(同)」は3か月ぶりのマイナスとなった(同-7.4%)。

このような所得・消費環境のなか、1月の「大型店売上高(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は100店舗、前年は93店舗)」は前年同月比+1.8%となり、3か月連続で前年を上回っている。品目別で見ると、「衣料品」(同-5.4%)と「家電機器」(同-2.9%)はともに7か月連続で前年を下回り、「身の回り品」(同-0.8%)と「家庭用品」(同-3.1%)も4か月連続のマイナスとなったが、ウエイトの高い「飲食料品」が8か月連続(同+3.6%)、「家具」も3か月連続のそれぞれプラス(同+10.6%)となった。一方、「既存店ベース(=店舗調整後)」の売上高は「飲食料品」(同+0.3%)と「家具」(同+7.3%)が前年を上回ったものの、「家電機器」(同-7.2%)や「衣料品」(同-5.8%)が大幅のマイナスとなったため、全体では4